

**ドリンク&ディスカッション
セミナー**

第57回例会

2016.6.25(土) 19:00~21:00 (終了後、懇親会有り)

対象／医療関係者 参加料／3,000円(軽食・飲み物付き 研修医/学生1000円)
※当日受付にてお支払いください。(受付にて領収書を発行致します)

IOMは大森・東京歯科口腔外科、理事長新保悟を中心として、口腔医療に携わる全ての人達で作るスタディグループです。オープンな勉強会ですので、どなたでも気軽にご参加いただけます。どうぞ、お知り合いの先生もお誘い合わせの上、奮ってご参加ください。※テーマは毎月変わります。

第57回 主な演者

医療法人社団 恵生会 理事長

渡辺 孝夫先生

日本大学歯学部 卒業



講演内容

「インプラント時代の 上顎洞底の解剖」

同先生は上顎骨頬骨突起下縁と側頭窩下の前縁が交わる点をZAC点とするラウンドマークを作られました。そのZAC点を上限とし、それ以下の上顎洞を上顎洞底と定義、今回はZAC点を基準とする上顎洞底の解剖学的構造の特徴をご披露頂きます。

今回は**活発なディスカッション**をする為、ご飲食ありの**ドリンク&ディスカッションセミナー**となります。人数分の軽食と、お飲物を数本準備致します。

※抄録は裏面に記載

- ・神奈川歯科大学大学院 3D画像解剖学講座、客員教授
- ・日本大学歯学部病理学教室兼任講師
- ・日本口腔インプラント学会専門医
- ・ICOI(International Congress of Oral Implantologist) Fellow, Deplomate
- ・AO; Academy of Osseointegration; Active member etc...

会場

Luz大森 4F 入新井集会室
東京都大田区大森北1-10-14

お申し込み (お問合わせ)

IOM事務局／大森・東京歯科口腔外科
担当: 安田
TEL/FAX/E-mailで承ります。
●TEL: 03-5767-7505
●FAX: 03-5767-7508
●E-mail: soushinkai.yasuda@gmail.com
●HP: http://iom-dental.net/

Facebook

当スタディグループのページ有り。【IOM】でご検索下さい。
Facebook上でも同イベントの申込を受けつけております。



第57回に参加 / 不参加

次回以降の案内 希望 / 希望しない

懇親会に参加 / 不参加
(近隣で2次会コース 会費制)

貴院/貴技工所/貴社名

ご参加者名

E-mail

ご住所 〒

TEL

()

FAX

()

インプラント時代の上顎洞底の解剖

神奈川歯科大学大学院歯学研究科(解剖学)客員教授
渡辺 孝夫

20年ほど前まで、一般歯科医にとって、上顎洞は触ってはいけないアンタッチャブルな領域でした。歯牙関連疾患として、抜歯時の歯牙迷入、歯性上顎洞炎、術後性頬部嚢胞などが口腔外科的疾患を中心に施術され、一般歯科医にはそれほど身近ではありませんでした。

しかしながら、インプラント治療が普及し、最近では上顎洞底挙上術のように、上顎洞に関わるインプラント治療を積極的に試みる時代になってきました。これらのインプラント治療では、上顎洞、特に、上顎洞底の解剖について十分な知見をもつ必要があります。

実は、一般的な医科の解剖学書では、上顎洞の存在や概略的な形態の記載があっても、上顎洞底という解剖学的構造についての記載はありません。歯科でも口腔外科を中心に扱われていた時代では、上顎洞底という漠然として概念はあったものの、明確な定義は造られませんでした。定義が無いこともあって、いままで上顎洞底という解剖学的研究はされていませんでした。この様なこともあって、1990年ころ、私と少数の仲間は研究用のご遺体を使って上顎洞底の解剖学的調査を始めました。この時問題になったのは上顎洞底の定義です。どの高さまでが上顎洞底か、上限がはっきりしなかったのです。そこで、私たちは、上顎骨頬骨突起下縁と側頭窩下の前縁が交わる点をZAC点としたラウンドマークを設定、それ以下の上顎洞を上顎洞底とし、その解剖学的調査結果を論文にまとめました。そのときの上顎洞底の形は‘く’の字に曲がった船底の形をしていました。それは、CTアクシャル画像でよくみる形です。

今回は、その結果を基に、インプラント治療に必要な上顎洞底の解剖学的特徴を報告したいと思います。